

北魏 石造仏教彫刻の展開 (仮称)

Development of Buddhist Sculpture in Northern Wei Dynasty, China

9月7日(土)～10月20日(日)

インドで生まれた仏教は、中国へ後漢時代(紀元後1世紀頃)に伝えられ、南北朝時代(5-6世紀)になると国家事業としての寺院の建立と巨大な石窟の造営が行われました。そして、仏教が広く中国全土に浸透する中で、地域ごとに特色のある仏像が生み出されるようになります。こうした長い中国仏教史において、最も優れた石造仏教彫刻が生み出されたのが、南北朝時代の北魏(ほくぎ/386-534)王朝でした。

本展では国内に収蔵される主要な優品と、山口コレクションをはじめとする館蔵・寄託作品を加えた約60件により、北魏石造仏教彫刻の全体像について「仏像の地域性」をキーワードに浮き彫りにしたいと考えています。

日本において、中国の仏教彫刻はまだまだ人々の目に触れていないのが現状といえます。しかしその一点一点を観察すると、今日では不可能なほど精巧な彫刻技術を示す作品や、素朴な温かみを感じさせる作品、さらには日本の仏像と密接な関係をもつ作品など、見飽きることがありません。

なお9月中旬に、中国から仏教美術研究者をお招きする特別講演会を予定しています。詳細につきましては当館ホームページにて発表いたします。

本展は、1500年前の北魏に焦点を絞ったきわめて稀な展覧会です。この機会をぜひお見逃しなく。



石造 如来坐像
北魏・天安元年(466) 本館蔵(山口コレクション)

テーマ展

陶芸家・富本憲吉の世界

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

辻本コレクションから、人間国宝となった富本憲吉(1886～1963)による陶芸作品と絵画資料類を、大和時代(大正2年～大正15年)・東京時代(大正15年～昭和21年)の作品を中心に展覧します。

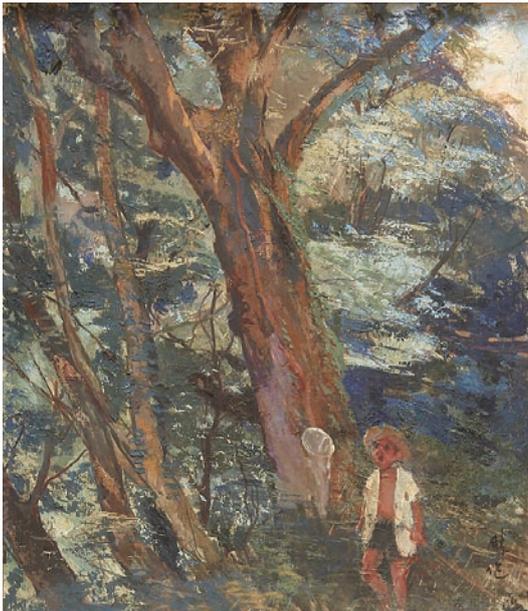


色絵染付 沢薊模様皿 九谷 富本憲吉
昭和11年(1936) 本館蔵(辻本コレクション)

絵の中のぼくの夏

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

長い長い夏休み。幼いころ、太陽の下で海や野山に遊んだ思い出はありませんか?美術館では、そんな夏の記憶を呼び起こす絵画を展示します。絵の中の懐かしい風景を探しに、ぜひお出かけください。



赤松麟作(1878～1953)「蝉とり」
昭和 本館蔵(南方登美子氏寄贈)

中国工芸 ―青銅器・陶磁器を中心に―

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

新石器時代の彩陶からはじまり、商周青銅器や唐代の三彩・銀器、宋金代の白磁・青磁・白地陶器などを経て、色彩豊かな明清時代の青花や五彩、精緻な装飾のある漆器まで、中国5000年の工芸作品を展覧します。



青花 瑞果文水注 景德鎮窯
明時代初期 15世紀 個人蔵

ミュージアム セレクション

7月9日(火)～7月21日(日)、8月6日(火)～8月25日(日)

開館77年を迎える美術館に集まったコレクションのなかから、中国、日本の名品を展示いたします。



蔣廷錫(1669～1732)「藤花山雀図」
清時代 18世紀 本館蔵(阿部コレクション)